

県立高等学校の在り方検討委員会ブロック別懇談会（宮古ブロック） 懇談の記録（要旨）

平成26年8月11日（金）

宮古地区合同庁舎3階大会議室

山本 正徳 宮古市長

なぜ高校教育をするのか、ということが原点だと思う。義務教育を修了した人間がどんなことを学ぶか、社会での自分の役割は何なのかを知るための高校だと思う。大人がそういう教育の環境を作らなければならない。多少の投資をしても、その環境を作っていくのが我々大人の責任であると感じている。

佐藤 信逸 山田町長

地方自治体は少子化が顕著である。拍車をかけたのが震災であった。このような状況の中で、一定以上の学力を保つのは難しい。

高校教育を考える場合、大学教育の在り方も見据えて考えなければいけない。少子化だが、大学の数は減っておらず、全入時代になっている。勉強しなくても大学に入れる時代である。このような背景を考えて高校の在り方も考えたい。

個性的な小規模校を生かすような環境を作っていきたいと考えている。また、被災地は生業もすっかりしていない家庭が多いので、通学への経済的配慮は絶対に必要である。

伊達 勝身 岩泉町長

格差をどのようにとらえているか。岩泉町では岩泉高校1校だが、生徒数減少で苦しんでいる。優秀な子ども、経済的に豊かな子どもは町外へ進学する。その現状をどうとらえ、均衡のとれた県土についてどう考えるかが大切である。下宿とか長時間の通学は生徒にとって大きなハンディキャップであり、格差である。経済的な理由で進学を断念する生徒がでないような仕組みを作るのが大人の責任である。地域的なハンディで学ぶ機会を失うようなことがあってはいけない。再編にあたっては、経済効率だけではなく、そういった視点も含め検討していただきたい。

石原 弘 田野畑村長

震災後、地域の人たちは政策を自分のものとして考えるようになった。地域格差をどう考えるのか、弱者をどう救うのかという視点が絶対に必要である。人口問題の大きな流れと連動して、高校再編は考えるべきである。特徴ある産業を考えていく上で、岩手の人づくりとは何なのかを考えるべきである。「そこに人がいますか」「そのための人づくりをしていますか」という視点が必要である。

小林 昭榮 田老町漁業協同組合代表理事組合長

震災で生活、社会が様変わりし、未だに厳しい環境である。それぞれの地域にある中心的な高校に進学できる子どもは整った環境で学習できる。例え小規模校に入学しても、4年制大学にいけるような環境は大切である。

都市部から高齢者を集めてきて、人口増を図り、総合学科等で福祉関係の系列を作って人材を供給する仕組みづくりもあってもよいのではないかと。

学区の見直しも必要と考えている。例えば宮古北高校の学区は、三陸鉄道を利用できるため普代村まで広げてもよいのではないかと考えている。

生駒 利治 山田漁業協同組合連合会代表理事会長

個別の学校の話にならないように言われたが、そうならざるを得ない。学びの環境整備は必要である。漁業の立場で言えば、震災後の人口流失が著しく、対応が必要である。これで高校がなくなれば大変なことになるだろう。従来の基準にこだわらないで考えて欲しい。

自治体に一つは高校がないと地域の教育力が下がっていくのではと心配している。高校の義務教育化、中高一貫教育等の発想も必要かと思う。

杉山 明弘 岩泉農業振興公社主任

岩泉町は一次産業が20%を占め、その中で畜産の生産額は70%に達している。しかし、生徒が農業について学びたくても盛岡に出ていかなければならない現状がある。岩手の特色を考えた時、農業は重要な課題である。ILCを含めて大切にしたい。農業は地域に密着したものなので、盛岡で農業を学んでも応用できない。人口減等による統合ではなく、岩手ではどんな産業を伸ばし、どう人材を育成していくかという視点が必要であると考えている。

中村 房永 田野畑村農林水産関係者代表

専門分野の学科を、できるだけ総合学科の系列として残していく方向で再編を考えて欲しい。沿岸部にはいろいろな格差がある。経済的、地域的な格差で高校教育が受けられないようなことがないようにして欲しい。

吉水 誠 宮古商工会議所専務理事

宮古地区には普通高校、工業高校、商業高校、水産高校等、バランスよく配置されている。生徒にとっては選択肢が多く、地域を担う人材を育成するという点でもよい環境にある。また、自宅から通えるというメリットも大きい。

高校においては、目的意識を持たせる教育をして欲しい。明確な進路意識を持たない生徒が増えてきている。キャリア教育に取り組み、地域や産業との連携を充実させて欲しい。

また、震災津波後の復興教育も充実させて欲しい。命の大切さ、人とのつながり、防災意識の向上等、地域で活躍する人材の育成が大切だと考える。

阿部 幸栄 山田町商工会会長

「今後の高等学校教育の基本的方向」では、県内の高校生の就職率は約30%、約4,100人が就職し、その内約5割が3年以内に離職している現状となっている。復興にとって、人材確保をどうするかが重要な課題となっている。離職率を考えると、子どもたちのコミュニケーション能力が不足しているのではないかと考えている。コミュニケーション能力等を伸ばす教育をすることで、離職率を下げられるのではないかと。

熊谷 浩 岩泉町商工業関係者代表

学級定員40人という基準は戦後のベビーブームの頃作られた基準ではないか。現状に合わないと思う。今後は、地域の特性を生かした教育を行っていかねばならないと考えている。小規模校は地域と一体となってオリジナル性のある高校にしていく必要がある。

学級定員40人では、教員にも負担がかかると思う。フレキシブルに学級定員を選択ができるようなシステムづくりを工夫して欲しい。

上山 靖 田野畑村商工業関係者代表

自分の子ども3人は、自分で高校を選び進学した。極端な話をすると生徒数の減少に伴い県全体の募集定員を減らす場合、盛岡地区の大規模校の定員を減らせば、沿岸部の小規模校への希望者が増え

るのではないかと考える。

佐々木 孝博 宮古市PTA連合会副会長

人口減を考えると統廃合は仕方ないだろうという考えが保護者には多い。高校の合格者一覧を見ると沿線の学校、特色のある学校は定員を満たしている状況がわかる。地域では、地元の産業との関わりに直結した学科が大切だと思う。

この地域の職場体験学習では福祉関係の希望者が多いが、福祉に関する学科がない。他の地区にはあるが、通学には遠いため経済的に無理という現状がある。また復興関係の人材教育は必要だが、建築学科、土木学科が沿岸部の工業高校にはない。今、地域で何が望まれているのかを見て検討を進めて欲しい。

小林 隆広 山田中学校PTA会長

震災の影響で山田中学校の生徒数も減少している。人材の流失が心配である。今、一番問題になっているのは、山田中学校の運動場が仮設住宅の建設によって使えないことである。高校の在り方の検討も必要であるが、中学校の現状もよく見て欲しい。地域の公共交通機関の状況もよくないので困っている。

日吉 理 岩泉町PTA連合会副会長

教育機会の保障の視点は大事である。小規模校が大半を占めている現状ではあるが、統廃合により、通学等に時間がかかり過ぎるのは問題である。

佐々木 升 田野畑中学校PTA会長

宮古水産高校を卒業し、地元に残り海の仕事をしている。少子化が進んだ現状をみると、子どもたちが地元以外の高校を希望することも理解できる。

地元に残ってもらうためには、地域の特性を生かした職場体験を積極的に行い、その魅力を伝えていくことが必要ではないか。

伊藤 晃二 宮古市教育委員会教育長

宮古一中の校長時代は、生徒の60%が普通高校を希望していた。そのうち90%が大学進学希望であった。専門高校を希望している生徒の大半は、地元への就職を希望していた。このように生徒の希望を踏まえて学校規模を望ましい状況に見直していく必要がある。学科の見直しや小規模校の在り方についても検討して欲しい。

地域的なハンディから、進路を躊躇する子どももいる。中・高・短大との連携の在り方についても議論したり、討論したりするチャンスがあればいいと感じている。

佐々木 毅 山田町教育委員会教育長

魅力ある高校づくり、具体的には小規模校の在り方についてどれだけ行政としてバックアップできるのかを考えていきたい。

山田町では高校の校長先生に義務教育の会議にも参加してもらい情報交換をしている。震災復興や地域に根ざした人材育成のことを考えると、地元の高校の適正規模については譲れないところがある。

三上 潤 岩泉町教育委員会教育長

将来を見据えた場合、県全体の問題として考えるべきである。宮古地区に関しては、単なる統廃合では済まないのではないかと考える。新設校とか、新設学科の設置等、思いきった改革が必要だと思う。

統廃合後の通学に対する支援等も合わせて考えていかなければならないのではないかと。

巖 敏雄 田野畑村教育委員会教育長

先生方の努力で各小・中学校では復興教育に取り組んでいる。高校に進学してもその意識が継続できるような教育をしていくことが大切である。

今年の田野畑中学校の卒業生 44 名のうち、約 4 割が久慈市の学校に進学している。その中で、久慈東高校への進学者が増えている。再編にあたっては、地域の人材を活用して、酪農や農業等の学習ができる系列の設置を総合学科の中に盛り込めないか検討して欲しい。

平賀 信二 教育次長兼学校教育室長

貴重な意見や要望をいただき感謝している。高校の再編ありきではなく、地域のいろいろな意見を伺うためにこの懇談会を行っている。いただいた要望等を持ち帰り検討し、さらに意見を伺いながら、今後の高等学校教育の在り方を検討して参りたい。

木村 久 学校教育室高校改革課長

現在の通学支援については、統合した学校で公共交通機関による通学が困難な場合、市町村等が運行するバスに経費の 2 分の 1 を補助しているものである。今後も学校の統合を行い、生徒の通学手段の確保が困難となる場合には、市町村と連携し検討を進めていかなければならないと考えている。

公立高校の規模については、高校標準法が平成 23 年の 8 月に改正され、設置者で考えていくことになった。

併設型中高一貫教育校については、一関第一高校に設置されているが、平成 27 年 3 月に附属中学校出身の生徒が卒業することから、進路の状況等を踏まえ成果を検証した上で、今後の導入の可否等を検討して参りたい。

総合学科については、生徒の選択の幅を拡大し自由な科目選択が可能となることから、生徒のニーズに応じた教育を行うことが可能である。一方、2 年生から各系列の学習に移行するため、専門学科と比べ専門科目の学習内容を十分に履修することができず、資格取得等で不利な面があるとの指摘がある。

盛岡地区の定員を絞ることによって、宮古地区に生徒が残るのではないかとという指摘があったが、必ずしも残るとは限らないと考えている。

岩井 昭 学校教育室首席指導主事兼高校教育課長

離職の状況については、校長会の進路部会で調査しているが、個人情報等の問題があり全ての卒業生の状況を把握できていない。労働局でも調査しているが、こちらは全体の数字のみで個別の学校についてはわからない状況である。離職については、個人の問題もあるが、昔に比べ雇用環境が厳しくなっている等様々な要因が考えられる。

キャリア教育については、県では平成 22 年にキャリア教育指針を策定して、小中高で取り組んでいる。高校でのインターンシップは地域の企業の御理解を頂きながら、全日制では 83% の高校が実施している。

松葉 覚 学校教育室首席指導主事兼特命課長（復興教育）

岩手の復興教育については、復興教育プログラムを作成し小中高全体で取り組んでいる。命の大切さについては「いきる」、人と人との繋がりについては「かかわる」、そして防災とか安全については「そなえる」というキーワードで取り組んでいる。最終的には、郷土を愛し、復興発展を支える人づくりを目標に各学校で取り組んでいただいている。

石原 弘 田野畑村長

人口減少については、ヨーロッパ等でも同じようなことがあると思うが、教育施策等で県教委が把握していることがあれば、お知らせ願いたい。

植田 眞弘 県立高等学校教育の在り方検討委員会委員

イギリスでは、農業に補助金を出す等して、若者が地元に残る政策を実施している。また、郷土に誇りを持たせる教育を実践し、定住人口を確保しているという事例はある。

藤岡 宏章 学校教育室首席指導主事兼義務教育課長

フィンランドでは、各自治体の教育に対する支援体制が義務教育段階では充実している。アメリカでは州ごとに教育施策が異なっており、人口の少ないところでは、衛星回線を利用して授業の連携を行っている事例はある。

人口が減ってきているのは日本だけではないので、学校の在り方についての検討はどの国でも進められていると思っている。

石原 弘 田野畑村長

人口が減っていくのははっきりしているが、将来の岩手の子どもたちをどう育てていくかといった夢を持ちながら検討を進めていただきたい。

伊達 勝身 岩泉町長

県立学校ではあるが、地域と連携を密にしながら個性ある教育を今後も行っていただきたい。

佐藤 信逸 山田町長

郷土を愛する教育を推進し、地元に残るような体制を構築していただきたい。

山本 正徳 宮古市長

たくさんの方々から、話を聞くことができ有意義な懇談会であった。これを、どうやってよい方向にもっていくかが、県教委や我々地元の関係者にかかってくると思う。県と地元と一緒に地元の教育のことをこれからも考えていきたいと思っている。

植田 眞弘 県立高等学校教育の在り方検討委員会委員

高校の在り方が、沿岸被災地の定住人口減少に対する対抗策になっていかなければならないと考える。そのためには、地元に残る若者の希望・夢を実現できる魅力ある教育環境を設定することが大切である。郷土に対する強い想いは、学校教育で培うものである。岩手の子どもたちは、皆磨けば光るものを持っている。高い学力を身につけさせ、郷土の復興や持続的発展を担う人財の育成をしていくことが大切である。

盛合 敏子 県立高等学校教育の在り方検討委員会委員

宮古地区には特色ある学校が揃っている。意見をお聞きし、高校に対する熱い想いが伝わった。これからも、意見をいただき委員会でも検討していきたい。